みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Some Ixilic Songs in Chajul, Quiché, Guatemala

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 馬淵, 卯三郎, 八杉, 佳穂 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00004484

チャフルのイシル語歌謡

馬　淵　卯三郎*　八　杉　佳　穂**

Some Ixilic Songs in Chajul, Quiché, Guatemala

Usaburô Mabuchi and Yoshiho Yasugi

The Ixil inhabit the northern part of the department of El Quiché, Guatemala. The geographical environment of this zone isolates them from western culture, and they are conservative in their retention of indigenous life-ways. Chajul, one of the three municipios of the Ixil people, is located on the eastern slopes of the Cuchumatanes.

This article describes some Ixilic songs of the Chajul. Although Ixilic songs sound indigenous, and the style in which they are performed is clearly indigenous in rhythmic as well as vocal terms, the notated melodies seem to be European. Musical analysis of the songs revealed that: i) the melody type or frame shown by the note example G is found in many songs, ii) this melody type or its prototype(s) could have existed in Pre-Columbian times, and iii) the melodies transcribed in this article probably resulted from the introduction of the European ones among the Chajul, who should have had already such melody types as the example G of p. 167.

はじめに
Ⅰ．イシル族について
Ⅱ．チャフルについて
Ⅲ．チャフルのイシル語歌謡
　——その歌詞について——
Ⅳ．チャフルのイシル語歌謡
　——その旋律について——
　1．録音リストについて
　2．採譜について
　3．記述と分析
あとがき

* 大阪教育大学，本館共同研究員
** 国立民族学博物館第4研究部

はじめに

この小論は，1976年12月25日から29日までチャフル Chajul（キチェ/グアテマラ）に滞在した際に調査・録音した言語および音楽資料のうち，特にイシル Ixil 語による歌謡（歌詞と旋律）に関する報告である。

現在までのところ，イシル語を主として取り上げた文献はないようであり，また，今回の調査地チャフルにおけるイシル語歌謡に関する文献は，本報告以前には見当らない。

調査に協力してくれた人たちは次の通りである。（イシル名を，インフォーマントたちの示した表記法に従って記し，スペイン語の名前は省略した。）

a. Luc　18才，農業。
b. Xalvi 17才，農業。
c. Mar　9才。
d. Xap Cap　41才，農業。
e. Bel Anai　30才，雑貨行商。
f. （マリンバ奏者）（3名）。
g. （Tambor 奏者）老人。
h. （Chirimiya 奏者）中年。
i. Mar Tzabas 中年。
j. Tec Mus 中年。
k. （Conjunto Amanecer con Cristo）（ヴァイオリン，ギター3，両皮締め太鼓＋マラカス，亀甲太鼓の計6名）

このうち女性は c, i の2名。また殆どスペイン語がわからないのが f, g, h, k である。k の亀の甲の太鼓（イシル名不詳）はナワトル語で ayotl と呼ばれていたもの［Marti　1968: 35, 38］に当る。木製撥は2本。

録音はオープン・リールとカセットで並行して行なわれたが，歌詞採取および採譜はすべてオープン・リールで録音されたものに依った。（後出録音リスト参照。）

なお本文は，Ⅰから Ⅲ までを八杉が，Ⅳ を馬淵が担当した。

Ⅰ．イシル族について

イシル族は，グアテマラ国キチェ県 departamento del Quiché の北部の3つの村

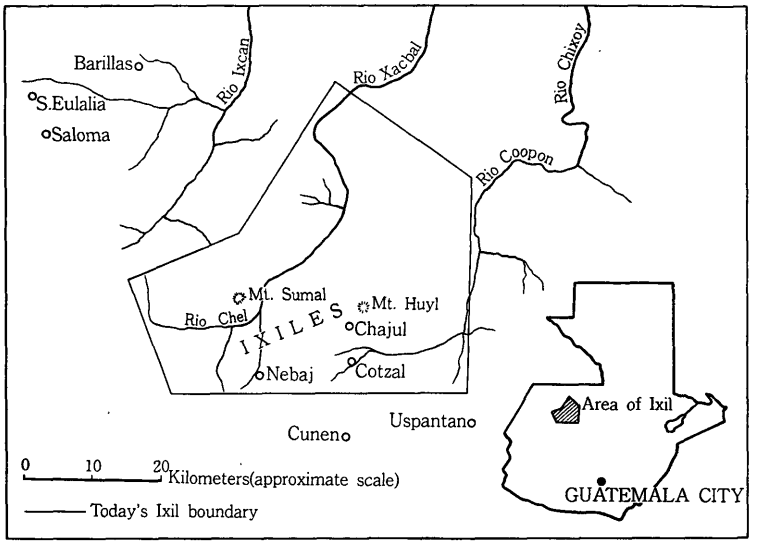


図1　イシル地方図

municipios, ネバフ Nebaj, サン・フアン・コツァル San Juan Cotzal, チャフル Chajul を中心に，クチュマタン山脈 Los Altos Cuchumatanes の北側斜面からさらに北の低地熱帯雨林に至る山岳地帯に住むマヤの一部族である。その人口は約46,000人である [KAUFMAN　1970: 55]。

イシル族が住む地域は 3,000 m 級の山々の連なるクチュマタン山脈に遮られているため，他地域との交流は少なく，人々は保守的であり，容貌・気質・風俗・習慣・言語等の特徴を他と異にしている。

歴史的には，この地域にも古代マヤ文明の遺跡が点在することから，かなり昔まで遡ることができる。特に興味深いのは，ネバフの遺跡から，低地マヤ式土器類とともに，他の高地マヤの遺跡には見られない擬似アーチを持つ墓が見付かったことである。ネバフ遺跡を発掘した Kidder らは，600年から1,000年頃まで栄えた遺跡としているが，さらに，イシル族は高地と低地をつなぐ中間商人のような役目を果していたのではないかという推測をしている [COLBY & VAN DEN BERGHE　1969: 39]。

言語学的にみても，イシル語は高地と低地の両方の特徴をあわせ持っている。即ち，音韻・形態論的には高地マヤ諸語と同じような特徴を持つのに対し，統語面では低地マヤ諸語と似た特徴をもっている。

このように，イシル族は他から隔絶され，また，古くから高地と低地の接点に住んでいるために，民族学や言語学の研究に，さらには古代マヤ文明を考える際に，マヤ

族の中でも特に重要な地位を占める部族とみなすことができる。

Ⅱ．チャフルについて

チャフルは高度約 2,000 m の地にあり，クチュマタン山脈の東斜面に位置する。中心部の人口は約 6,000人，周辺部を入れて約 18,000人，そのうち約89パーセントがイシル族で，残りはラディノ ladino である。アルデア aldeas（＝小村）が9，カセリオ caserios（＝少数の家からなる単位）25からなる面積 1,524 km^2 の，行政面からいえば重要度の低い第3級の町である。

イシルの中心地ネバフは，グアテマラ市から 239 km，キチェ県の行政中心地のサンタ・クルス・デル・キチェ Santa Cruz del Quiché から 85 km のところにあるが，チャフルはさらに奥へ 23 km 入ったところに位置している。

サンタ・クルス・デル・キチェからは未舗装の山道で，途中 3,000 m 級の山々の聳えるクチュマタン山脈が横たわるため，外部との交流が少なく，他からの影響が比較的少ない町である。

男達は，他の村の男達のように南部海岸の大農場に出稼ぎに行くことは少なく，ほとんどの者は土地に留まり，主に農業に従事している。主産物はトウモロコシで，他に豆，コーヒー，じゃがいも，ウィスキル等を産する。産業はマゲイの繊維から紐や網袋を作る他，これといったものはない。因みに，男達の1日の労働賃金は1ケツァル（米貨1ドルに相当）前後である。女達は，家事の他は，ウィピルや帯を織って暮している。他の村の女性のように積極的にウィピル等を売り歩くことはなく，それらからの収入はほとんど期待できない。

唯一の交通機関は，週2便ネバフとチャフルを往復しているバスである。それ以外は，自分の足に頼らざるを得ない。バスは市場が開かれる前の晩にやって来て，市場が終わる頃帰って行く。唯一の交流場となる市場は，週2回だけ，即ち，火曜日と金曜日の朝9時頃から夕方まで，教会の前の広場で開かれる。チャフルの人々はもちろん，コツァルやネバフから商人や人が集まって来るが，ネバフのものに比べると規模は小さい。

このように，チャフルの人々は，他の土地の人々と比べて，外部との接触が少なく，土地との結びつきが非常に強い印象を受ける。その顕著な例として，スペイン語をまともに操れるインディオがほとんどいないことを挙げることができよう。他のインディオの町でも同じような状態の所が多いが，それでも，外部志向の強い家庭では家庭

内でスペイン語を努めて話すように心掛けているため，2言語を完全にこなせる人（極端な場合は，母語を完全に失ってしまいスペイン語しかしゃべれなくなった人）に出会う率は，チャフルに比べると高いように思われる。

村の中でも交流は限られている。縁の近い人々の間でしか結婚は行なわれていないし，ごく近い親類の人々との付き合いしかない。最近，神父が他の村の人との結婚をすすめて少し変ってきたが，それでも，容貌・姿を見ただけで，大きく幾つかに分類できるくらいの血の濃さを感じることができる。

考古学的には土器を伴った文明の証拠が2世紀以前からあったことが確かめられているが，チャフルは，この地域で征服期以前から重要な地であったようである。現在はイシルの玄関ともいえるネバフにすべてを譲っているように思われる。しかし，宗教的には，この地方最大の聖地といわれるフイル Huyl 山とともに，周辺に信仰の対象となる山々を多くもつこと，他の村と比較して大きな教会をもつことからわかるように，今でもこの地方の中心地である。

チャフルは，グアテマラでも指折りの僻地であり，古い伝統をよりよく残している村と考えられ，また言語学的に興味深いので，予備調査の村として選んだが，僅か3日間で，かなりの数のイシル語歌謡が採集されたことからわかるように，時間をかければ，さらにおもしろい結果が得られ，諸方面の研究に豊かな実りをもたらす村と思われる。

Ⅲ．チャフルのイシル語歌謡

――その歌詞について――

以下に用いるイシル語の表記は，アメリカ言語学で一般に用いられる音声字母を用いた簡略音声表記である。なお，母音が初頭にある場合，義務的に声門閉鎖がその前に現われるが，その表記は略すことにする（たとえば 'o¢o¢→ o¢o¢）。

表1　イシル語チャフル方言の簡略音声表記法

子音	p	t	¢	č	ć	č̣	k	q		
	b'	t'	¢'	č'	ć'	č̣'	k'	q'	'	
			s	š		ṣ̌				x
	m	n								
	v	l	r	y						
短母音	i			u	長母音	ii			uu	
		e	o			ee		oo		
			a				aa			

Ⅰ．1. kame¢/na/b'an/¢i¢i

kam-e¢: "何"。

na<ni＋a: 不完全相（又は現在時制，継続を表わす）の ni に主語を表わす

人称代名詞 A（以下，人代Aと略す）の二人称形 a がついたもの。

b'an: 動詞 "為す"。

¢i¢i: "あそこ"。

*) 人代 A は，他動詞文の主語と自動詞文の不完全相における主語，それに所有代名詞の役割を果す。人代 A のつく語が子音初頭幹か母音初頭幹かで形は少し異なる。

人 称 代 名 詞 A の 例

	子音初頭 (q'ab 手)	母音初頭 (o¢o¢ 家)
1 st Sg.	in q'ab	v-o¢o¢
2 nd Sg.	a q'ab	av-o¢o¢
3 rd Sg.	i q'ab	t-o¢o¢
1 st pl.	qu q'ab	q-o¢o¢
2 nd pl.	e q'ab	et-o¢o¢
3 rd pl.	i q'ab čaqnaq	t-o¢o¢ čaqnaq

2. xit/ve't/at/aš/tenam

xit: 否定詞 "ない"。

ve't: ある種の感じを添える語。正確な意味は不明であるが，ve't のあるなしで，意味はかわらない。

at: "ある，いる"。

aš: 人称代名詞 B（以下，人代 B と略す）の二人称形。

tenam: "村"。

*) 人代 B は，他動詞文の目的語，自動詞文の完全相における主語，それに補語文の主語の役割を果す。

人 称 代 名 詞 B の 例

1 st sg.	at in ¢i¢a　私はここにいる
2 nd sg.	at aš ¢i¢a
3 rd sg.	at ¢i¢a
1 st pl.	at o ¢i¢a
2 nd pl.	at eš ¢i¢a
3 rd pl.	at čaqnaq ¢i¢a

3. q'aven/in/paqt/¢i¢a

q'av-en: 動詞　q'av "もどる" の命令形。

in paqt: "もう一度"（参考：in val "ひとつ"，ka val "ふたつ"）。

4. tula/čib'in/se'e

tul-a: “それで，そのとき”。

čib'-in: čib' “うれしい”。in は人代 B の一人称形。

se'e<s-a-e: あなたに対して”（参考：sve “私に”，ste “彼に”）。

訳　あなたはあそこで何をしているの。

あなたは村に居ない。

もう一度ここに帰ってきて。

それで私はうれしかった（あなたが帰ってきたので，私はあなたに対して満足した）。

Ⅱ. 1. tale/al/aš/čeel/in/c̣uc̣e'ii

tal-e al aš: “あなたはどこにいるのか”。

čeel: “今”。

in: 人代Aの一人称形，所有を表わす。

c̣uc̣-e'ii: c̣uc̣ “母”，e'-ii は接語。

2. malaya/onkone'ii

malaya: 意味不明。

onkon-e'ii: “無知”。

3. ye'le/ve't/xatu'/la/vilaš

ye'l-e: 否定詞 “ない”。

xat-u': “いつ”。

la v-il-aš: la は未来を表わす。 v は人代 A の１人称形（主語）。 il: 動詞 “見る”。

4. mi/xeb'/eqal/tul/mi/xeb'/kab'i

mi xeb': “～もない”。

eqal: “あす”。

tul: “そして”。

kab'i: “あさって”。

5. so¢/ve't/aš/ye'l/in/paqt/la/vil/ve't/aš

so¢: 動詞 “消える”，so¢-aš “あなたは消えた”。

6. ilin/ila/val/čaq/koq/vaq/ee'lin

il: 動詞 “見る”，il-in “私をみよ”。

ila: “ここ”。

v-al: “私の息子”。

čaq koq vaq: 意味不明。koq は疑いを示す語。

ee'l-in: “私とともに”。

（試訳：“ここに私がいるといわないで”）

7. oq'oq/kuš/in/b'a/ta/vo¢o¢/va/vatimb'al/va/vilamb'al

oq'-oq in: “私は泣くだろう”。

kuš: kuš が修飾する語の意味を強めたり，限定する機能をもつ。“ちょうど”，“それだけ”。

b'a: “ほら”，“さて”。

ta(<ti-a) v-o¢o¢: “あなたの家で”。

v-at-im-bal: “あなたがいた所”。

v-il-am-bal: “あなたが休息した所”。

訳. あなたはどこにいるの，おかあさん。

どこにいるのかしら。

決してあなたに会えない，

明日もあさっても。

あなたはいなくなってしまった。もう二度とあなたに会えないでしょう。

私はいるわ，息子よ。もう決して私が共にいるといわないで。

私はあなたがいて，休息していた家で泣きつづける。

この歌は，インフォーマントが歌詞を思い出し，前もって書きつけておいたものを見ながら歌われた。彼はかなり記憶があいまいだったようで，3回歌い直したが，第1回は4行目で中断，第3回目も4行目からは忘れたといって歌うのをやめた。全部歌われた2回目も何度もつまって歌いなおしながら歌ったため，歌った通りを書きとることをやめ，インフォーマントが上述のように前もって書きつけておいたものを上に記した。彼の書いたものと彼の実際の発音との間には相違がみられた。たとえば ve't [b'e't], čaq koq [čax kox], vaq [b'aq], oq'oq [oq'ox], vatimb'al [b'atimb'al] などである。

Ⅲ. 1. tan/malaya/tal-e¢/(al)/aš-e/na'-ii

tan: “なぜなら”。

na'ii: かわいさ，親愛の情を表わす。

2. tal-e¢/al/in/čuč-e/na'-e'-ii

“私のおかあさんはどこにいるのかしら”。

3. tal-eɕ-eb'/kuš/al-eɕ/u/onkon-e'-ii

"どこにいるのかしら"。

4. tal-eɕ-eb'/kuš/nik/ṣank/aš/čeel-e-i/na (→ nik/ṣank'enee/aš)

ṣank: 動詞 "歩く"。

nik＝ni。

5. tal-eɕ-eb'/kuš/al-ee/al-in/čuč-e'-i

"私のおかあさんは一体どこにいるのかしら"。

6. tal-eɕ-eb'/kuš/al-ee/aš/čeel-ii

"一体あなたはどこにいるのかしら"。

訳　あなたはどこにいるのかしら。

私のおかあさんはどこにいるの。

どこにいるのかしら（知りようがない）。

一体今どこを歩いているのかしら。

一体私のおかあさんはどこにいるの。

一体あなたは今どこにいるのかしら。

Ⅳ. 1. tal-e/nik/palk/aš/tal-e/nik/ṣank/aš

palk: 動詞 "通る"。

tal-e nik palk aš: あなたはどこを通っているのか"。

2. kam-al/la/ul-i'e/še't/in/b'il-aa

kam-al: "たぶん"。

la ul-i: "彼がやってくる"。

še't in b'il-aa: "私は言った"。

b'il: "少し"。

3. tul/ye'/kat/v-il-a v-ul-e'/na'-e

ye': 否定詞。

kat: 完全相又は過去。

v-il-a v-ul-e: "私はあなたがやってくるのを見る"。

ul: 動詞 "来る"。

4. yii/aš/kuš/ti/onkon-e'-ii

ti: 前置詞，場所を表わす。

5. oq/na/čumun-e/na/aɕ-oq/ye'l-e

あなたが悲しんでいようと悲しんでいまいと。

6. na/al-oq/ać/vin/kol/q'ab'/s-aš-e-naa

al-oq: "なんでもない，重要でない"。

ać vin kol q'ab' s-aš-e-naa: "なぜなら私の指輪があなたのところにある"。

訳　あなたはどこを通って，どこを歩いているのかしら。

たぶんやってくるわ。

だけども，あなたがやって来るのを見なかった。あなたの責任よ。

あなたが悲しんでいようと悲しんでいまいと問題ではないわ。

なぜって，私の贈った指輪があなたの指にはまっているから。

V. 1. tan/malaya/tal-e¢/al-e/onkon-e'-ii

2. tal-eb'/nik šaonk-ii/čel-i/naa

どこを歩いているのかしら。

3. tal-e¢-e'/al-ee/čuč-e/čuč-e/naa/čuč-e/čuč-e/čuč-e/naa

4. tal-e¢-eb'/kuš/al/aš/čeel/onkon-e'-ii

5. tal-e¢-eb'/kuš/nik/aq'onvik/aš/čeel/na

nik aq'onvik aš: "あなたは働いている"。

6. nik-e¢/in/čumun-e/nik-e¢/v-oq'-ee

nik-e¢ in čumun-e: "私は悲しんでいる"。

nik-e¢/v-oq'-ee: "私は泣いている"。

oq': 動詞 "泣く"。

7. tan/ye'l-e¢/u/kam/v-e¢-aan

kam: "何，もの"。

v-e¢-aan: "私の必要なもの"。

訳　どこにいるのかしら。

今どこを歩いているのかしら。

どこにいるの，おかあさん。

どこに一体今あなたはいるのかしら。

どこで一体今あなたは働いているのかしら。

私は悲しいの，泣いているの。

なぜなら，服も食物もないから。

Ⅵ. 1. tal-e¢/al-e/onkon-e'-ii

2. tal-e¢/al/in/čuč-e/na'-e/na'e

3. tal-e¢-eb'/kuš/al-e/aš-ee/na'-e'-i

4. xat(u)-e¢-eb'/kuš/la/v-il-a v-ul-e'/naa

訳　どこにいるのかしら。
どこに私のおかあさんはいるの。
どこに一体あなたはいるの。
いつあなたが帰って来るのが見られるかしら。

Ⅶ. 1. tan/tal-e¢-eb'/kuš/la/v-il-v-at-aš-ee
2. tal-e¢-e'/kuš/la/v-il-v-at-e/na'e
3. in/čuč-e/čuč-e/na/in/čuč-e
4. tal-e¢-eb'/kuš/la/v-il-v-at/aš-e
5. onkon-e'-ii/onkon-e/tal-e¢-eb'/kuš/la/v-il-v-at-aš

訳　どこで一体私はあなたに会えるのかしら。
どこであなたに会えるのかしら，おかあさん。
私のおかあさん，おかあさん，私のおかあさん。
どこで一体私はあなたに会えるのかしら。
わからないわ，どこで一体あなたにあえるのかしら。

Ⅷ. 1. ta-malaya/naaa
2. tan/malaya/soy/b'išom/la/vinaq/naa
soy: スペイン語からの借用“私は……である”。
b'išom: “踊手”。
vinaq: “男”。
3. tan/b'iq/la/v-el-a
el: 動詞“去る”。
4. tan/b'iq/la/v-ok-e
ok: 動詞“入る”。
5. malaya/čuč
6. ta-malaya/laa/laaa
7. ta-malaya/laa/laaa
8. ta-malaya/la.....
9. la.....
10. tan/toq-e¢/in/b'an/in/valin/exa
toq: 起動詞 (toq-e¢ → toq-o¢)。
in valin exa: “内で役立つ”。

11. tan/toq-e¢/in/b'an/in/valin/axa
    axa: "外で"。
12. tan/toq-e¢/s̱aon-oq-in
13. tan/soy/b'iš̱om/la/vinaq/naa
14. tan/at/in/puaq
    なぜなら私にはお金がある。
15. tan/at/kam/v-e¢/malaya
    kam v-e¢: "生活用品"。

(繰り返し)

16. tan/eela/koq/in/tuć'/in/vaq/xab'il/eela/koq/in/tuć'/in/vaq/kam
    eela: "同じ"。

訳　私は男の踊手だ。
踊りながら外へ出ることもできるし,
内へ入ることもできる。
自分の家の内で踊ろう。
招かれた家へ踊りに行こう。
通りで踊ろう。
私は男の踊手だ。
私にはお金があり，生活必需品もある。
(繰り返し)
私は他の男と違い，できないことはない。なんでもできる。

Ⅸ. 1. malaya/č̣uč̣/malaya/naa
2. vaten/kuš/aš/aš-ee/naa
   vaten aš: "あなたは悪い人だ"。
3. tan/kat/aq'ka/in/na'e/na'e
   kat (t)aq'ka-in: "私をおいてきぼりにした"。
4. vaten/kuš/aš-e/na'e/na'-e
5. tul/se'e/kuš/te/na'-e/na'-e
6. tul/kat/q'os-o/s̱ikine/naa
   q'os-o: "ひっぱたく"。
7. vaten/kuš/aš-e/č̣uč̣-e/č̣uč̣-e/na
8. kat-e¢/kuš-ee/sa/in/b'eiye/na

sa in b'eiye: "私をだます"。

訳　ああ，かわいい人よ。
おまえは悪い女だ。
なぜなら俺を捨てて逃げていったではないか。
おまえは悪い女だ。
おまえにひっぱたかれた。
おまえは悪い女だ。
おまえは俺をだました。

X. 1. b'iɕ/t-eɕ/čumun/toq/b'iɕ-oq-in
b'iɕ t-eɕ čumun: "悲しみの歌"。
toq b'iɕ-oq-in: "私は歌い始めよう"。
2. tan/n-in/čumun-e/toq/b'iɕ-oq-in
tan n-in čumun-e: "なぜなら私は悲しいからだ"。
3. tan/n-in/čumun-aš
"なぜなら，私はあなたが原因で悲しい"。
4. tan/n-in/čumun/se'e
3 の aš と 4 の se'e はどちらも "あなた" だが，se'e の方が間接的。3 は "ここにいるあなた"，4 は "ここにいないあなた" と考えてよい。
5. tan/n-in/v-oq'le/aš
6. tan/tal-eb'/al-a/ćić-in/se'e
ćić-in/se'e: "私があなたに語る"。
7. tal-eb'/kuš/ya/ele/ćić-in/se'e
8. ni/kuš/in/čum/aš

訳　悲しみの歌を私は歌い始めよう。
なぜなら私は悲しい。歌い始めよう。
なぜなら私はあなたのせいで悲しい。
なぜなら私はあなたのせいで悲しい。
なぜなら私はあなたのせいで泣いているからだ。
どこにいるのだろう，どこを歩いているのだろう。
私は本当にあなたのせいで悲しい。

XI. 1. n-in/čum/aš/naa
2. n-in/čum/aš/čuč

3. n-in/čum/aš/naa/na'-e/na'e-/naa
4. tan/tal-eb'/kuš/al-a/ćić-in/naa/naa
5. n-in/čumun-e/na/na/na/na
6. tal-eb'/kuš-e/al/u/onkon-e/ćić/in-e/na/na/na/na/na

訳　私はあなたのせいで悲しい。
私はあなたのせいで悲しい，おかあさん。
私はあなたのせいで悲しい。
どこを一体歩いているのかしら。
私は悲しい。
どこを一体歩いているのかしら。

XII. 1. malaya/naa/toq/b'iȼ-oq-in
2. tan/ye'l-eȼ/la/soȼ-e'/vi/b'iȼ/in/k'uy/i/mam
ye'l-eȼ la soȼ-e': "消えないだろう"。
vi/b'iȼ/in/k'uy/i/mam: "私のおばあさんとおじいさんの歌"。
3. tan/ye'l-a/ya/tal-aš-e-na
"決してつきることはない"。
4. tan/la/b'iȼ/in/ȼiȼa/enaa
5. tan/la/koq/soȼ/vin/b'iȼ-e/naa
vin b'iȼ-e: "私の歌"。
6. xit-eȼ/in/b'iȼ-e/i/b'iȼ-eȼ/in/k'uy/i/b'iȼ-eȼ/in/mam
"私の歌ではない。私の祖母と祖父の歌なのだ"。
7. xat/va't-eȼ-e/alamale/ye'/alamale/la/b'iȼ-lenee
"どんなに人が生まれようと生まれまいと歌われるであろう"。
8. la/koq/čumun/ine/naa
9. tan/v-ooȼ-aq-le/kam/uva/at/s-in/k'ub'lee
kam uva at s-in k'ub'lee: "心の中にあるものを"。
v-ooȼ-aq-le: "私は知る"。

訳　歌い始めよう。
なぜなら祖先の歌は消え去ることはない。
決してつきることはない。
ここで歌おう。
なぜならこの歌は消え去ることはない。

この歌は私のものではない。祖先の歌なのだ。
どんなに人が生まれようと生まれまいと歌われるだろう。
私は悲しくはならないだろう。
なぜなら心にあるものを知っているから。
（どのように生きるか知っているから）。

XIII. 1. taqa'/b'iȼ-oq-in/taq/čeemnoq/ȼaalin
b'iȼ-oq-in: "私は歌おう"。
čeem: "織る"。
2. ȼ'uȼ/ȼu/iyaa
3. ene/ne/ene/naa
4. ȼ'uȼ/ȼu/ȼ'uȼ/ȼuy
5. taqa'/b'i/ma/b'iȼ-e/mi
6. nei/na'ei/tuq/in/čuč/čuč-i/naa
（1は唱者が歌う前に言った言葉で，歌われているのは第2行目からである。採譜Cの G 13-1 参照）
訳不詳。

XV. 1. toqob'/čeemnoq/nii
2. xate/b'ima/čei
3. kam/ini/ma/ma/čei
4. kame/na/b'an/čel-i/ma
"今何をしているのだろう"。
5. kame/na/b'an/ȼii
6. xati/b'a/čei
7. tuqin/čuč/u/b'eni/šei/čuče'ii
訳不詳。

XV. b'iȼ meb'a'il "貧窮の歌"
1. kat-eȼ/kuš/in/malab'a/na'e
"私には守ってくれる人がいなくなった"。
2. nik-eȼ/kuš/in/čumun-ee
"私は本当に悲しい"。
3. tal-eȼ/toq-in/kaxeb'a/sexa
"私はどこで気晴しをしよう(?)"。

4. kat/kuš/in/malab'a/ču̇č̣

"私には保護者がいなくなった，おかあさん"。

5. ečo/kuš/te/b'aa

6. teš/in/čumun-e/teš/voq'-e

"私は悲しい"，私は泣いている"。

7. čuunken/b'in/čuč̣/in/čunken/b'in/b'aa

8. ečo/kuš/te/čuč̣/čučė'ii

9. maya/čučė/malaya/e/malee/in/čučė'ii

訳不詳。

Ⅳ．チャフルのイシル語歌謡

——その旋律について——

1．録音リストについて

この報告では，イシル語の歌のみを取り上げるが，次にその依拠資料となったものを含む録音リストを掲げる。このリストには，今回取り上げなかったものも含まれている。この小論のみでなく，今後の研究にも同定の必要があるので作製したものであるが，言語資料の場合と異なり，音楽資料については，作業にあたって同定に困難を伴なうことが多く，また，それら音楽資料の個体性を一般化する方法が確立されていない現段階では，このような一覧表は現実に必要なのである。

録音リスト

日　時	内　　容	インフォーマント	テープ no.	録　音 no.	歌　詞 no.
1976. 12.25	イシル語	a, b	G 1	1	
	En el campo cubierto de flores			2	
	De rama estrella	a, b, c		3	
	A la rorro niño			4	
	Campana sobre campana			5	
	イシル語	a, b	G 2	1	
	Morena de 15 años	a, b, c		2	
	Probablemente			3	
	イシル語（歌も）	a, b		4	
12.27	イシル語（チャフルの暦も）	d	G 3	1	
	イシル語		G 4	1	
	Kameȼ na b'an ȼiȼi		G 5	1	I
	同　上			2	I

	イシル語			3	
	イシル語（動詞）		G 6	1	
	Tale'al aš (canción de lloro)			2	II
	イシル語			3	
12.28	Tan malaya taleɕ aš na'ii	e	G 7	1	III
	同　上			2	III
	Tale nik palk aš			3 a	IV
	Tan malaya taleɕ ale onkoneii			b	V
	Taleɕ ale onkoneii			4	VI
	Tan taleɕeb kuš la vilvat aše			5	VII
	Tamalaya na（サント像の canaste をかいて歌う歌，中断，数回）			6	VIII
	Malaya čuč malaya naa			7	IX
	パシュ・ムシュの踊り（伴奏）I	f	G 8	1	
	同　上　II			2	
	Son de tristeza (violinetta)	e		3 a	
	B'iɕ teɕ čumun toq biɕoq in（歌詞朗読）			b	X
	Nin čum aš naa			4	XI
	B'iɕ teɕ šaom (violinetta)			5	
	（子供の歌）	d の子供	G 9	1	
	Malaya na toq b'iɕoq in	e		2	XII
	Kameɕ na b'an ɕiɕi (canción de abuelo)			3	I
	同上（2声部で）	d, e		4	I
	Tale'al aš（断片）	e		5	II
	同上（canción de lloro; 中断数回）			6	II
	B'iɕ čumumb'al（説明，歌は断片）			7	
	Fiesta の第1曲	g, h	G10	1	
	同　第2曲			2	
	同　第3曲			3	
	Canaste の踊りの音楽　I		G11	1	
	同　上　II			2	
	同　上　III			3	
	サント像の踊りの音楽			4	
	女の踊り（Cofradíaのサントのフィエスタにおける）		G12	1	
	?			2	
	ɕ'uɕ ɕu iyaa（機織唄）	i	G13	1	XIII
	Toqob čeemnoq nii (canción de tristeza)			2	XIV
	kateɕ kuš-in malab'a na'e	j		3	XV
	（終曲？）	g, h		4	
	Cofradíaの音楽　I	k		5	
	同　上　II		G14	1	
	同　上　III			2	
	同　上　IV		G15	1	

Stella Vox SP7 (G 1–7: 19 cm, G 8–15: 38 cm), D 202×2, Scotch 225.

録音場所：G 3–15 は d 宅，ただし G 8 の 1, 2 は路上。

2. 採譜について

上掲リストに示した音楽資料のうち，イシル語歌謡のみを採譜したが，幸いなことに歌い手たちは，音高に関しては比較的良好であった。主要な協力者であったシャプ・カプ (d) とベル・アナイ (e) は，歌い手として有能ではなく，歌詞を考えながらポツリポツリ歌うといった有様であったが，一般に音程感覚はよかった。

採譜にあたって主な困難は，音価とアクセントの記述方法である。イシル語の歌はどれも，この土地本来の音感に基づく旋律のように耳には聞こえるのだが，採譜されたものから浮かび上がってくる旋律形態は，否定しようもなく西欧的である。耳に聞いた感じと譜面化されたものとのこの齟齬の原因が，彼らの歌い方に由ることは明らかであった。“間”の取り方，リズム感覚（長短の音価の組み合わせパターン＋アクセント配置法），アクセントの種類，そして声の音色ないし発声法などがその原因である。たとえばアクセントに関していえば，声門音が，西欧的旋律から西欧的リズム感を除去する一要素であろう。

イシル語に限ったことではないが，これらの歌の採譜では，上記のような，音高以外の諸要素の的確・厳密な採譜が必要である。残念ながら筆者はそれに耐える記述方法を持たないので，単に，拍子記号や小節線は特に理由の無い限り記譜せず，アクセントやテヌート記号などで不十分ながらその歌唱様式を記述するよう努めるにとどまった。

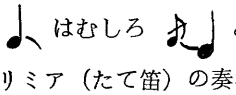
五線上方に付記された音価はいわば editorial rationalization である。

母音が延びているところでは，それぞれ歌い方に対応するよう記譜した。

変位記号の配置は，その出現順に依る。

速度記号で → を用いたものは，次第に早くなっていることを示し，— は，ふたつの早さの間で安定していないことを意味する。

明確に歌われていない声には， を用いた。

 はむしろ とでも記譜すべき歌い方で，採譜された歌に限っていえば，チリミア（たて笛）の奏法の模倣ではないかと思われる。

採譜は記述・分析の都合上下記のように分類した。

A. G 5-1, G 9-3.

B. G 7-1, 2, 3a, 4, 5.

C. G 13-1, 2, 3.

D. G 9-1.

E. G 6-2, G 9-6.

F. G 7-3b, 6, 7, G 9-2, G 8-4.

3. 記述と分析
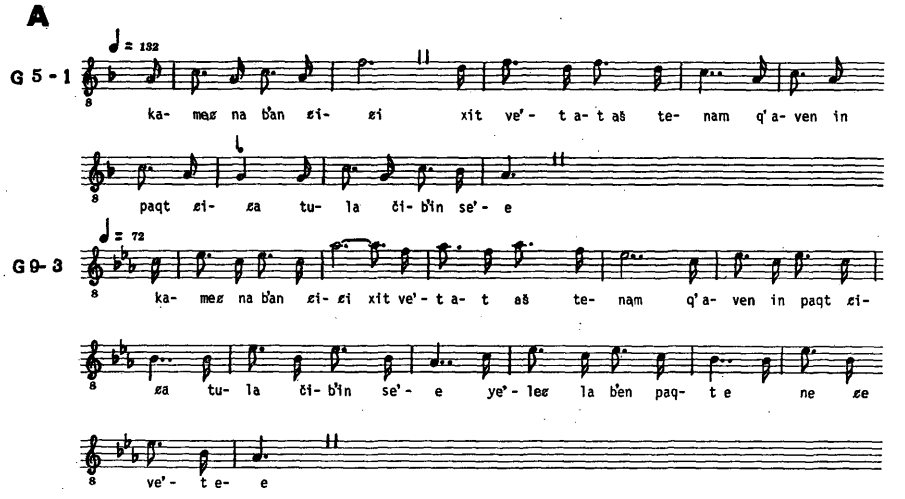
チャフルにおいても，他のインディオ村落と同じく，スペイン語の歌を聞く方が容易であった。d や e はもはやイシル語の歌を日常口ずさむこともないらしく，思い出すのに大変な努力を要した。したがって，d や e の歌ったものは，採譜から想像されるほど体裁の整ったものではない。他方，女たちが布を織りながら，つれづれを紛らして歌っているのがよく聞こえてきたが，彼女たちが原則としてスペイン語を知らないことの帰結として，それらはイシル語の歌である。しかしそれを近くで聞くことのできたのは僅か2曲 (G 13-1, 2)，それも一夕，笛と太鼓の音楽を沢山聞いて興を催したものか，その座の花に歌ってくれたものである。

前述のように採譜を見た限りでは錯覚しやすいのであるが，実際に耳に聞こえる感じはおよそそれらしくない例として B グループを挙げておこう。これは，この土地本来の旋律形態でないことはいうまでもないが，そして，8分の6拍子的に歌い始めるのだが，ものの2小節たらずで拍子感覚などはどこかへ消し飛んでしまい，6/8 はおろか 3/4 でもない，偶数拍子とも，各音にアクセントがついたものとも何とも，西欧的拍子からいえば，わけのわからないものになってしまうのである。したがって，楽譜として記述されたものからはおよそ想像しがたいことだが，実際歌われたものからの印象は，たとえばラカンドン族の朗誦風の歌 [馬淵　1976] に近いものを感じさせるのである。

B グループの数曲——あるいは，ひとつの歌の数節であるかも知れない——のみが半音程を持つが，他の歌はすべて，みごとに一貫して半音程を持たない下降長音階である (C の G 13-2 のみ短調)。

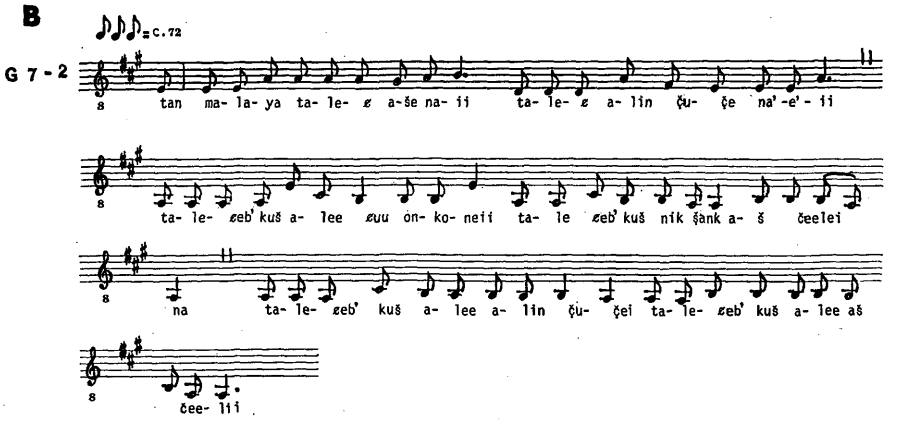
イシル語の歌のあるものは，音階ないし旋律形態では西欧風の外見を持ち，恐らく，近世初期西欧の通俗旋律ないし民謡との関連も実証可能ではないかと思われるのだが，それにもかかわらずそれらが地場的ないしマヤ的に聞こえるのは，イシル語の発音と抑揚が西欧的リズム（アクセントを持った流れ）を押しとどめ，したがって，それを前提として成立した拍子感覚を破壊してしまうからであろう。シラビックな様式のこれらの歌の，シラブルひとつひとつを押さえてゆくようなアクセントは，詩行の最後のシラブルを延ばして旋律を構成しようとする一種の形式感覚——それは採譜に明らかであろう——と相い俟って，すべてを朗誦風にしてしまう。採譜の旋律形態には過去における西欧の強制が明白に現われているが，これらの歌に地場的性格が強く感じ
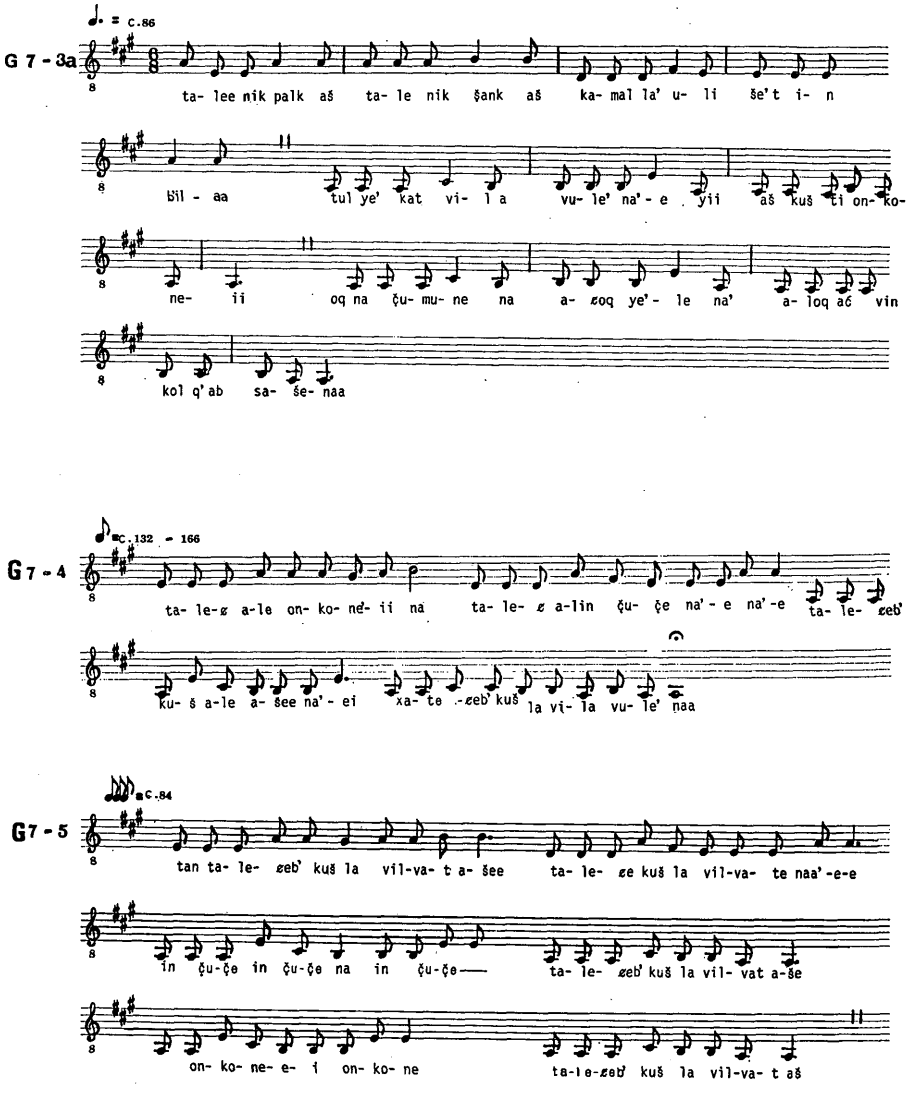
られるのはまさに今述べたような，言語的要素からする同化作用の結果である。



Aグループは同じ歌で，G 9-3は訂正版と称して歌われたものである。G 5-1，G 9-4も同じものであるが，後者はわざわざ2部で歌って聞かせようとしたものである。しかし残念ながら力足らずというところであった。それにしても，これは，この土地において西欧風の音楽がどの程度の熱意をもって宣布されてきたか，その一端のうかがえる興味ある現象である。

この歌の場合ももちろん，とても記譜された旋律形態から予想されるような歌い方でなく，十分地場的歌唱様式であったが，他方，G 1やG 2に録音されたスペイン語の歌はどれもリズムや拍子レヴェルで十分非イシル的であることを付言しておきたい。
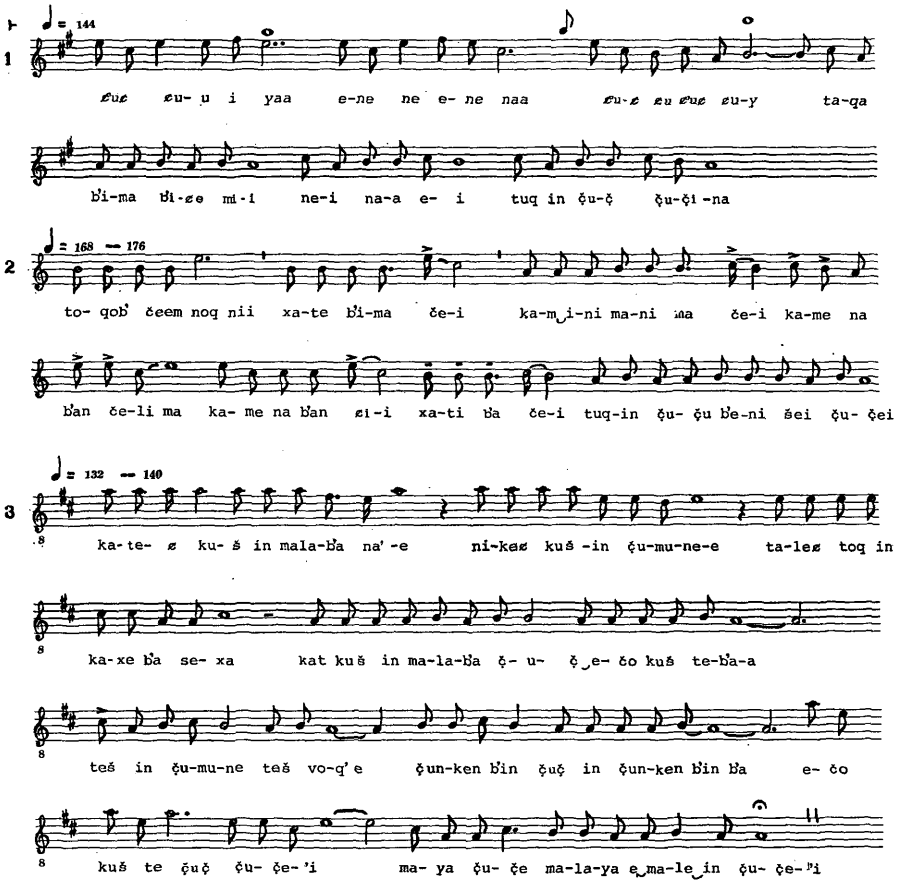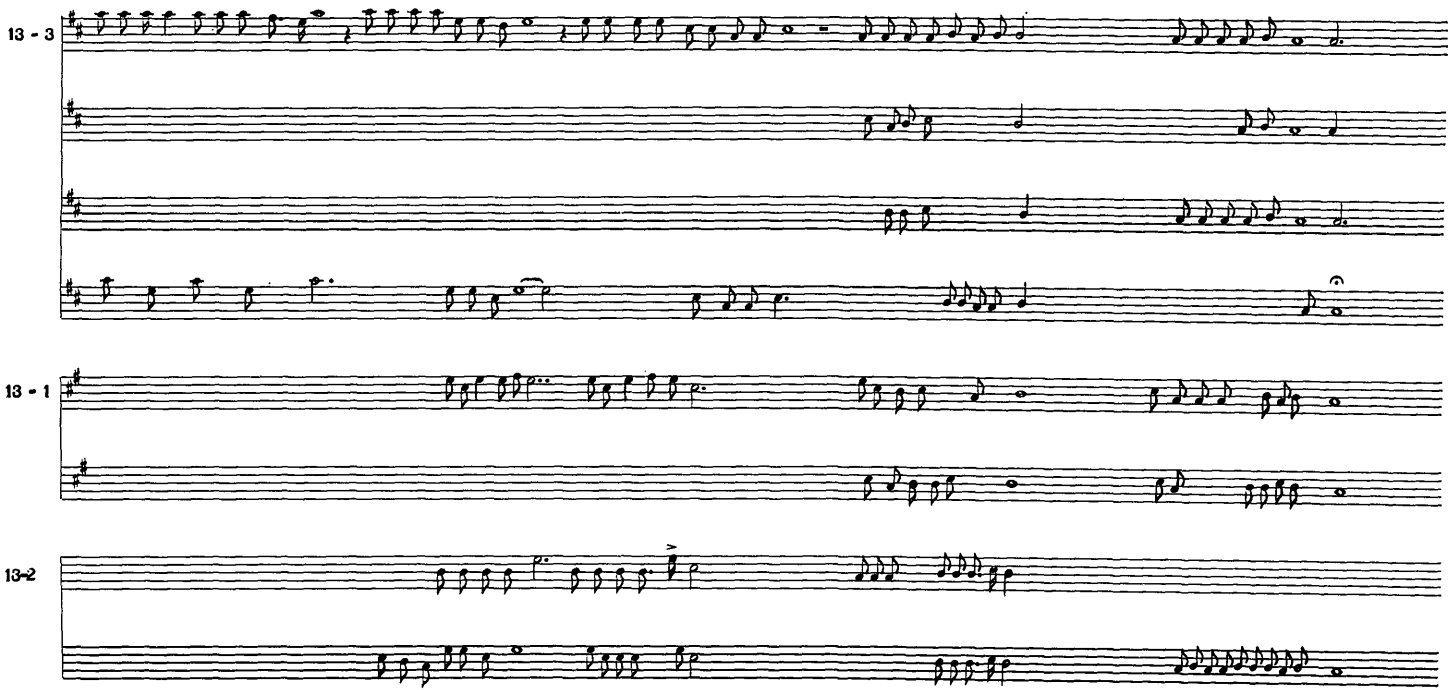




Bグループについては既に述べた通りであるが，ここでは，各曲の後半，音域の下った部分について触れておきたい。この部分はトリコルド Trichord （3度枠3音の音列）による朗誦風旋律であるが，採録した音楽の大半において，曲の後半部にこれの平行現象が見られる。たとえば次のCグループを見られたい。

C

G 13


1
♩= 144
ɛ'uɛ ɛu- u i yaa e-ne ne e- ne naa ɛu-ɛ ɛu ɛ'uɛ ɛu-y ta-qa
ƀi-ma ƀi-ɛe mi-i ne-i na-a e- i tuq in ɕu-ɕ ɕu-ɕi-na
2
♩= 168 — 176
to- qoƀ čeem noq nii xa-te ƀi-ma če-i ka-mi-ni ma-ni ma če-i ka-me na
ƀan če-li ma ka- me na ƀan ɛi-i xa-ti ƀa če-i tuq-in ɕu- ɕu ƀe-ni šei ɕu- ɕei
3
♩= 132 — 140
ka-te- ɛ ku- š in mala-ƀa na'-e ni-kɛɛ kuš-in ɕu-mu-ne-e ta-leɛ toq in
ka-xe ƀa se- xa kat kuš in ma-la-ƀa ɕ- u- ɕ e- čo kuš te-ƀa-a
teš in ɕu-mu-ne teš vo-q'e ɕun-ken ƀin ɕuɕ in ɕun-ken ƀin ƀa e- čo
kuš te ɕuɕ ɕu- če-'i ma- ya ɕu- če ma-la-ya e ma-le in ɕu- če-'i
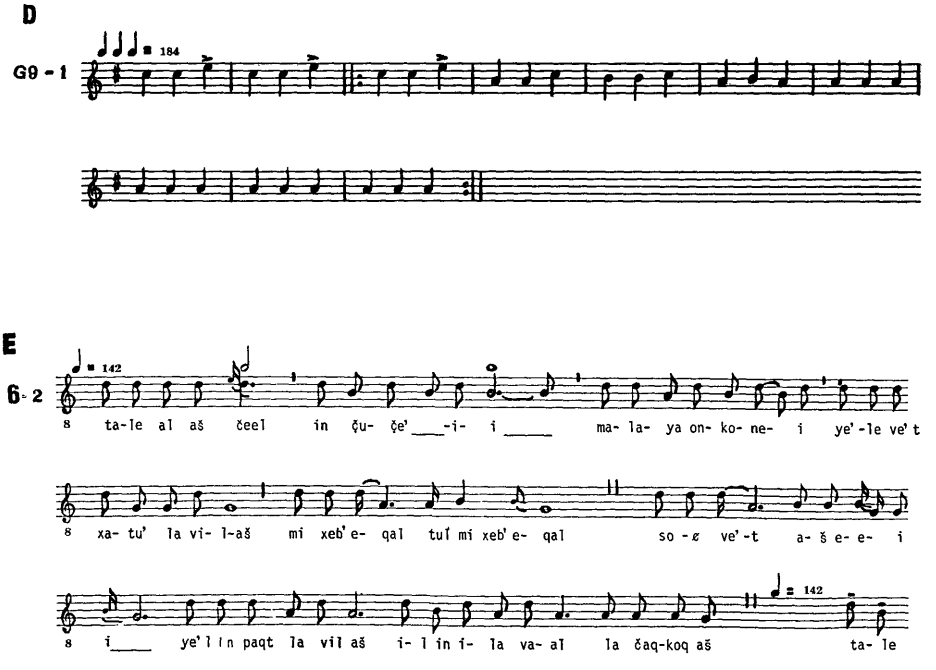
G 13
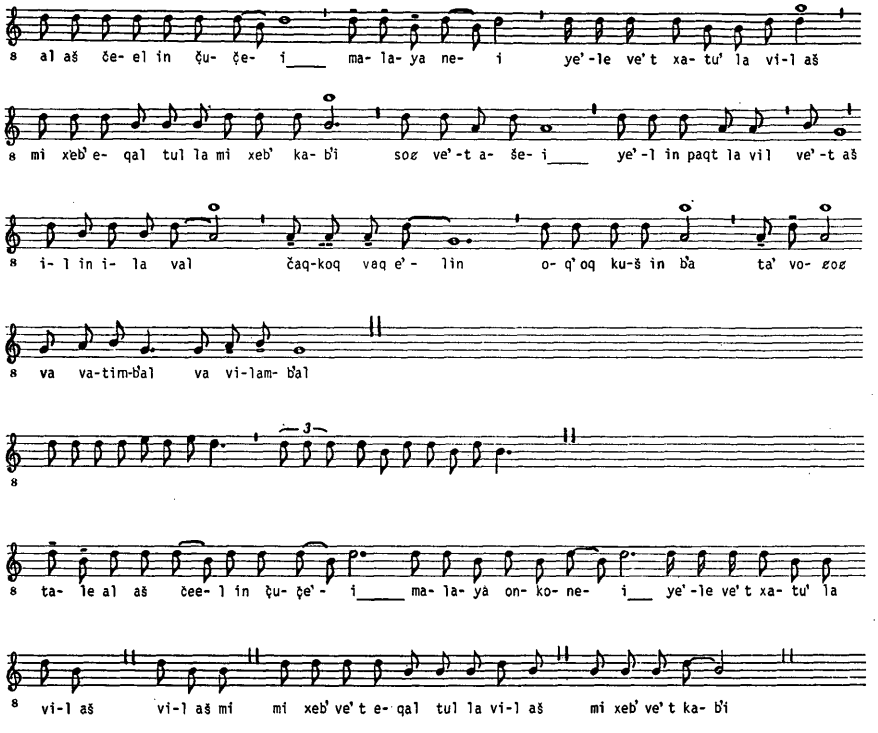


Cグループの3曲は，歌ってくれたiもjも，これら相互間に，比較譜で示したような対応関係のあることを意識していないに違いない。これらは，布を織る時に口ずさむような歌で，その意味でまた即興性の強いものであるが，それらの土台にひとつの基本的形式があることは容易に理解されよう。

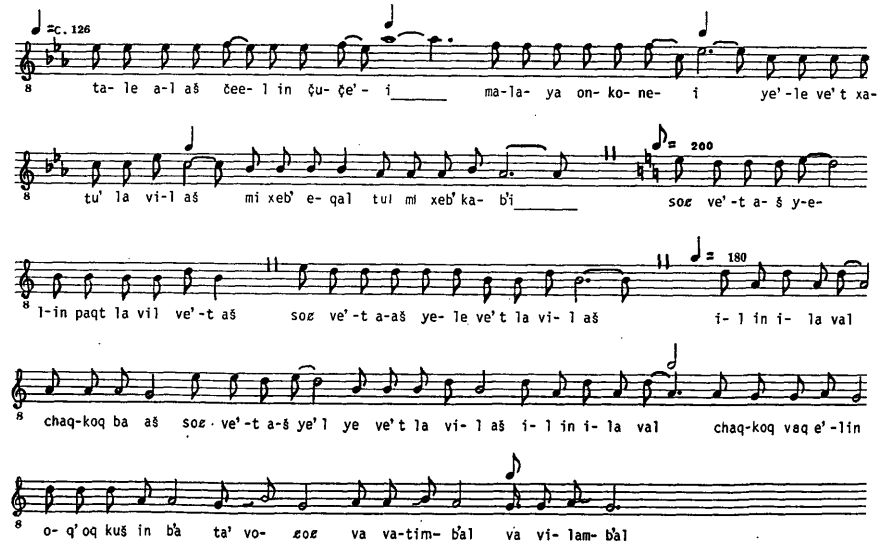
歌い出しの部分は，聞き覚えた何かの歌からの断片的借用であるかも知れない。あるいは自己流に変形していることであろう。しかし，後半部には共通の旋律（ないし音配列）パターンの存在が明白である。図式化すればax (bx...nx)——aは自由，可変；xはカデンツ・パターン——となる。音名でいえば，e′におさまる部分(a)に対して，cis′ (c′), h, aのそれぞれにおさまる部分(x)がカデンツ・パターンである。cis′におさまる部分は両者の中間に位置して多少あいまいかも知れない。ところで，この図式は，Aグループを除いて，採譜された旋律すべてに共通の構造図式である。決して偶然的なものでなく，また，このカデンツ・パターンは，カデンツに用いられなければならない理由があるのだろう。

このx部分が十分に展開されると，非常に安定した形式感が生じる。それをE, Fグループが示している。



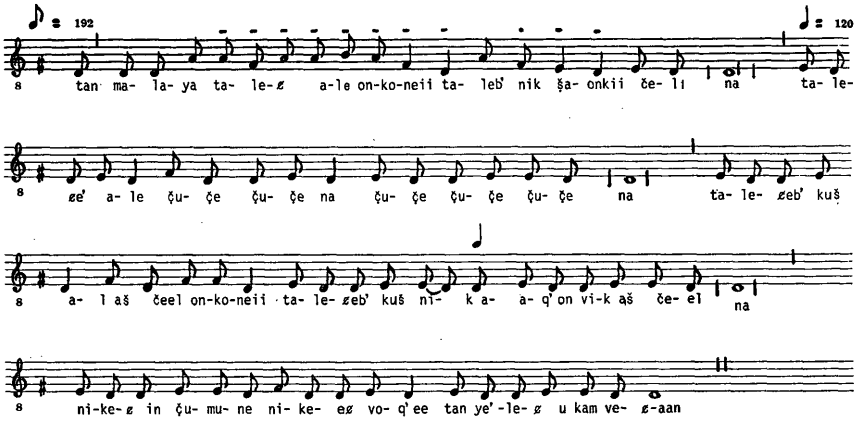

al aš če- el in čʉ- če- i ma- la- ya ne- i ye'-le ve't xa- tu' la vi-l aš
mi xeb'e- qal tul la mi xeb' ka- b'i soɛ ve'-t a- še- i ye'-l in paqt la vil ve'-t aš
i- l in i- la val čaq-koq vaq e'- lin o- q'oq ku-š in b'a ta' vo- ɛoɛ
va va-tim-b'al va vi-lam- b'al
ta- le al aš čee- l in čʉ- če'- i ma- la- ya on- ko- ne- i ye'-le ve't xa- tu' la
vi-l aš vi-l aš mi mi xeb've't e- qal tul la vi-l aš mi xeb've't ka- b'i

G 9-6
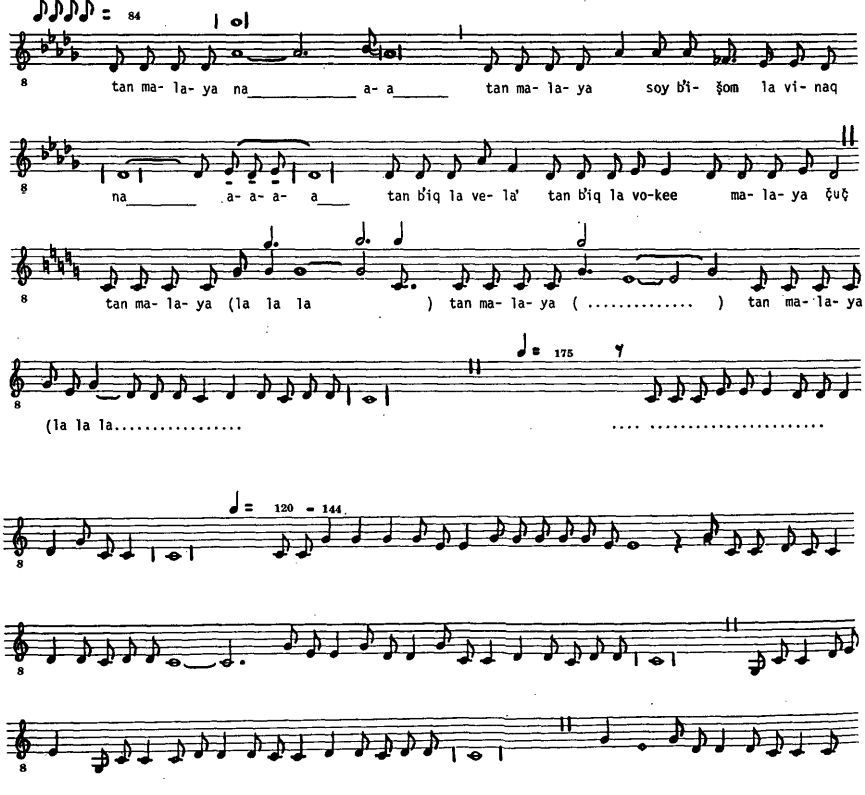

♩=c. 126
ta- le a-l aš čee- l in čʉ- če'- i ma-la- ya on- ko- ne- i ye'-le ve't xa-
tu' la vi-l aš mi xeb' e- qal tul mi xeb' ka- b'i soɛ ve'-t a- š y-e-
♪= 200
l-in paqt la vil ve'-t aš soɛ ve'-t a-aš ye- le ve't la vi- l aš i- l in i- la val
♩= 180
chaq-koq ba aš soɛ ve'-t a-š ye'l ye ve't la vi- l aš i- l in i- la val chaq-koq vaq e'-lin
o- q'oq kuš in b'a ta' vo- ɛoɛ va va-tim- b'al va vi- lam- b'al
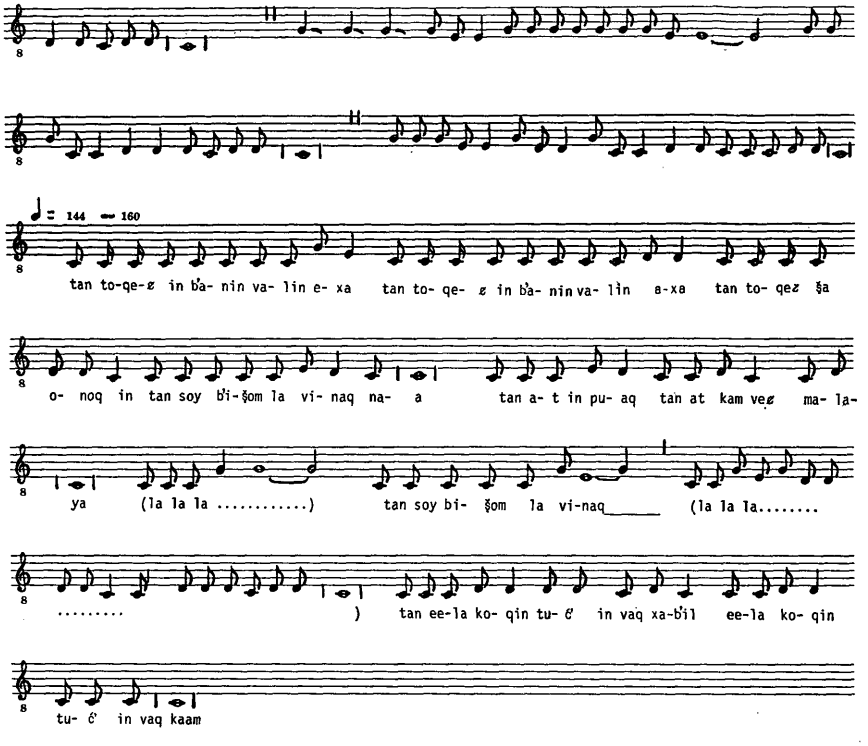
F

G7-3♭

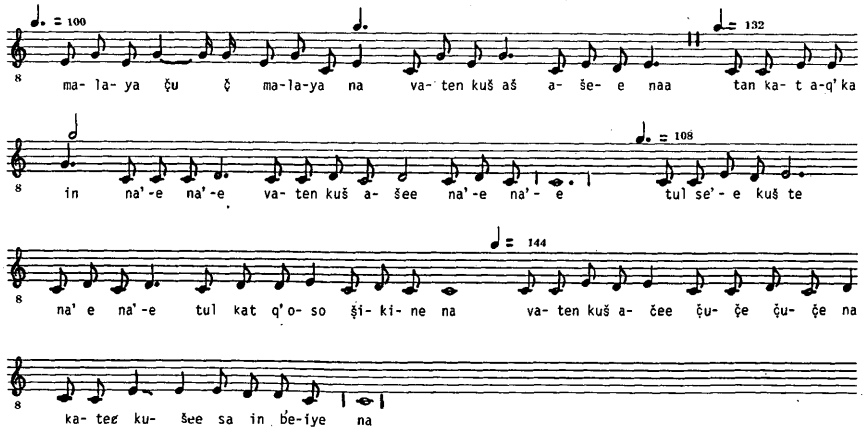

♪ = 192
tan ma- la- ya ta- le-ɛ a-le on-ko-neii ta- leb' nik ŝa- onkii če- lı na ta- le-
♩ = 120
ɛe' a- le ču- če ču- če na ču- če ču- če ču- če na ta- le- ɛeb' kuš
a- l aš čeel on-ko-neii ta- le- ɛeb' kuš nı- k a- a- q'on vi-k aš če- el na
ni-ke-ɛ in ču- mu- ne ni- ke- eɛ vo- q'ee tan ye'-le-ɛ u kam ve- ɛ-aan

G7-6

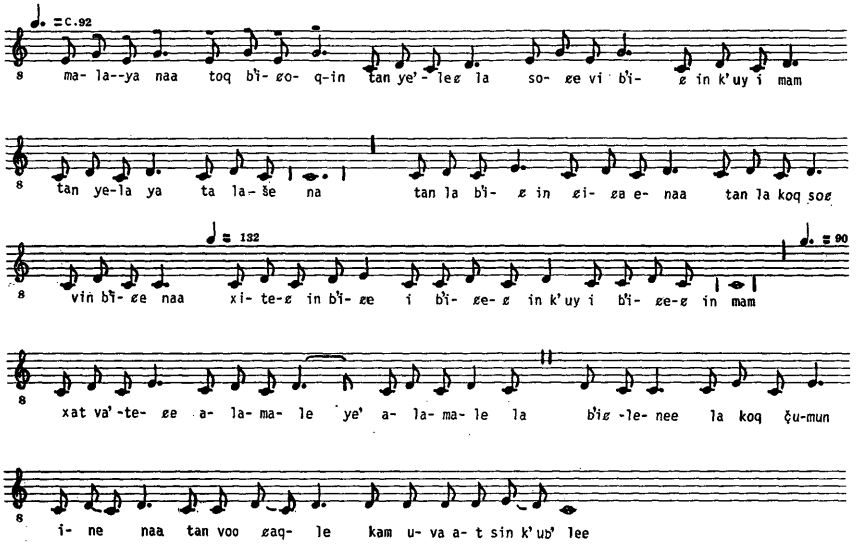

♪♪♪♪♪ = 84
tan ma- la- ya na a- a tan ma- la- ya soy b'i- šom la vi- naq
na a- a- a- a tan b'iq la ve- la' tan b'iq la vo-kee ma- la- ya ču
tan ma- la- ya (la la la) tan ma- la- ya (.....) tan ma- la- ya
♩ = 175
(la la la..... ....
♩ = 120 - 144


♩= 144 ~ 160
tan to-qe-ƶ in ɓa- nin va- lin e- xa tan to- qe- ƶ in ɓa- nin va- lin ə-xə tan to- qeƶ ʂa
o- noq in tan soy ɓi-ʂom la vi- naq na- a tan a- t in pu- aq tan at kam veƶ ma- la-
ya (la la la .....) tan soy bi- ʂom la vi-naq_____ (la la la.....
.....) tan ee-la ko- qin tu- ƈ in vaq xa-ɓil ee-la ko- qin
tu- ƈ in vaq kaam

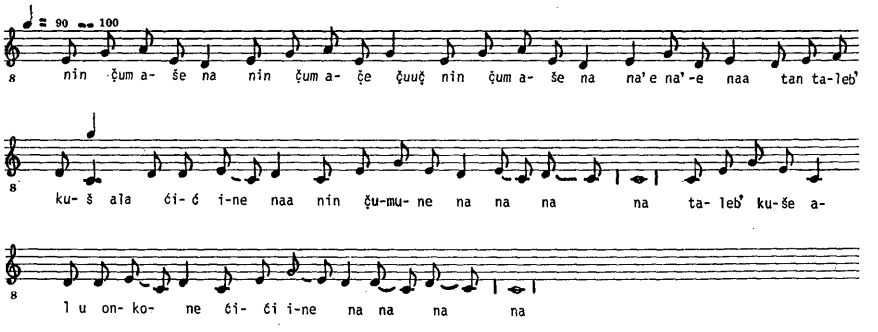
G 7 - 7


♩. = 100
♩= 132
ma- la- ya ʈu ʈ ma-la-ya na va- ten kuš aš a- še- e naa tan ka- t a-q'ka
♩. = 108
in na'-e na'-e va- ten kuš a- šee na'-e na'- e tul se'- e kuš te
♩= 144
na' e na'-e tul kat q'o- so ʂi- ki- ne na va- ten kuš a- čee ʈu- ʈe ʈu- ʈe na
ka- teƶ ku- šee sa in ɓe-íye na

G9-2

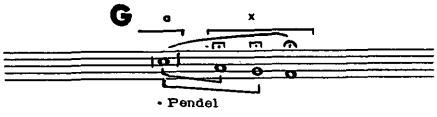


G8-4



Eは，上述のカデンツ・パターンの拡大であると言えるほどである。またこれらの土台にある音配列として，朗誦音が3度，4度，5度下の音とペンデルし，あるいは，それらへ順次下降終止するようなものが考えられる（音配列については [馬淵 1976: 41-43] 参照)。

非常に概略化していえば，Aグループ以外の歌（および録音リストに挙げたチリミアとタンボルの合奏）の基礎にある音配列および形式は，次のように図式化して示すことができる。



D は d の子供（学令前？）がたわむれて歌ったものだが，同じカデンツ・パターンをふまえていて，その限りで，この図式の枠内にある。

F グループには雑多なものが含まれているが，音配列分析については，今まで述べたことで十分であろう。

G 8-4 は，e がビオリネッタ（＝ハモニカ）を吹いて (G 8-3a)，同じ曲だといって歌ってくれたものである。旋律はa部分で多少異なっていたが，そしてリズムも8分の6拍子であることがかなり明瞭に表現されていたが，x にあたる部分ではハモニカと歌とはほぼ合致している。

また G 7-6 の中間で，歌詞の無い部分の旋律には，G 10, 11, 13 に録音されたチリミアの旋律と合致するものがある。チリミアとタンボルの合奏は計10曲だが，旋律素材的には2群に分けられ，それぞれにおいて，リズム・音型レヴェルで即興的に変奏されているが，その旋律素材は G 7-6 に見られるものにほかならない。

a, b, c および f を除き，他はすべて d の依頼でわれわれの調査に協力してくれた人たちである。したがって，おそらく d と同じ cantón Hilom の住人であろうし，コフラディアをともにする人たちであるから，以上に述べたことをどこまで一般化できるかはわからないが，多分次に述べる程度のことは言ってもよいのではないかと思われる。

i) 図式 G で示したような音配列および旋律構造は，この土地の音楽のひとつの基本的なものであろう。

ii) 図式 G そのものではないまでも，少なくともこの程度の段階にまで発展した音楽が，もともとチャフルに存在していたのであろう。そしてそれがいわば受け皿となって西欧の音楽を受けいれたのであろう。

iii) 現在のイシル語歌謡は，B グループについて述べたようなリズム・拍子レヴェルでのイシル化と，旋律形態・音階レヴェルでのアカルチュレーションとの相関的様式を示す。しかし，その中から，イシル族ないしチャフル本来の要素を分析によって明らかにすることは可能であると考えられる。

〔付記〕

Ⅰ～Ⅲはもともと1977年3月にはでき上っていたものであり，Ⅳもその大部分は1978年秋には書かれていたが，馬淵の事情で最終的な完成が非常に遅れ，共同執筆者八杉氏には大変申しわけ

ないことになった。おわびしたい。

最後になったが，この調査に関して児島英雄氏（在グアテマラ市）の御好意・御助力のお蔭を大いに蒙ったこと，および Profesor José Castañeda M. (Instituto Indigenista Nacional 所長）の御好意とに謝意を表する。（馬淵　記）

本論のイシル語の歌詞には不明なところがあり，その分析はいまだ不十分である。イシル語はマヤ諸語の発展を考える上で重要な言語であるため，機会があればイシル語の調査を行い，その際，本論の歌詞の分析を完全なものとしたいと考えている。なお，本館の垂水稔助教授，長野泰彦助手には草稿を閲覧のうえ，ご助言をいただいた。心から謝意を表したい。（八杉　記）

文　　献

Anonimo
n.d. *Algo de los Ixiles.* El Dzunun, Guatemala.

Colby, Benjamin N., and Pierre L. van den Berghe
1969 *Ixil Country.* University of California Press.

Kaufman, Terrence
1970 *Proyecto de alfabetos y ortografías para escribir las lenguas mayances.* Proyecto Lingüístico Francisco Marroquín, Antigua Guatemala.

Lincoln, J. Steward
1942 *The Maya Calendar of the Ixil of Guatemala. Contribution to American Anthropology and History,* No. 38, Carnegie Institution of Washington.

馬淵卯三郎
1976 『マヤの音楽をたずねて―ラカンドンの森のうた―』キングレコード株式会社（GXH (K) 5001—3 および解説書）。

Martí, Samuel
1968 *Instrumentos musicales precortesianos.* Instituto Nacional de Antropología e Historia, México.